

第9回 YMK 会講演会・懇親会のご案内

2018年3月吉日

SSIS 文化活動委員会

SSIS 会員の皆様におかれては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、1月の先行ご案内の通り、第9回 YMK 会では、東芝出身の藤井氏による歴史シリーズ第3弾を、春爛漫の4月下旬にご講演頂くことになりました。

前回の第2弾は、武士が台頭してきた平安時代後期から鎌倉時代初期にかけ疾風のごとく駆け抜け、歴史の彼方に消えていった栄光と悲劇の英雄、源義経の波乱万丈の31才の生涯を取り上げました。今回は、その後の鎌倉幕府中期の執権北条時宗の時代に迎えた日本の有史以来の危機、元寇の役を中心に取り上げ、如何にこの国難を乗り切ったかという内容を題材としました。

講演者藤井氏の長年の調査・研究に基づく講演ですので、奮ってご参加されることをお願い申し上げます。

出欠の回答期限：2018年4月21日(土)

出欠宛先；bunka@sis.or.jp

— 記 —

1. 講演会

■開催日時 2018年4月28日(土) 午後4時10分～午後6時

講演 1時間30分

Q&A 20分

■開催場所 「かながわ県民センター」15F 1501 会議室

JR 横浜駅西口北出口から徒歩5分

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 電話 045-312-1121

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5681/p16362.html>

■講演者 藤井嘉徳氏 (SSIS 会員 歴史館委員会、編集委員会、文化活動委員会)

■演題 「～蒙古襲来、危急存亡の鎌倉時代～ 執権北条時宗の決断と武士団の奮戦」

第1部 史上空前、ユーラシア大陸を席捲する世界最強の大モンゴル帝国の野望

第2部 元寇の国難、時宗の深謀遠慮と、蒙古に立ち向かう九州武士団の激闘

第3部 その歴史的意義、「神風」というねじれの表象と、あるべき日本の歴史観

■講演概要

(1) 13世紀初頭の1206年、バイカル湖の南部のカラコルムに、ジンギスカンが率いるモンゴル帝国が勃こった。その後、わずか70年に満たない期間にその勢力は、西は、東ヨーロッパ・アナトリア（現在のトルコ）・シリア、南は、アフガニスタン・チベット・ミャンマーそして東は中国・朝鮮半島におよぶその最大領域は、実に世界の陸地の25%を占める史上空前の大帝国を確立した。1260年に始まる第5代皇帝のフビライカンの治世、その触手が、いよいよ海を乗り越えた日本に及ぶことになった。威圧的な国書が届いたのは、鎌倉時代中期の1268年、第8代執権北条時宗が18才の時。1271年に国号をあらためた元の世界最強の軍団を迎え討つ日本は、のちの1274年の文永の役、そして1281年の弘安の役と呼ばれるこの戦いにおいて、どのように戦い、勝利したのだろうか。

(2) 講演者の高校時代の1970年代前半、日本史Bの教科書では、いずれの戦いも、あたかも突如として吹き荒れた暴風雨により、あっけなく元軍は壊滅したかのような描写がなされていた。当時、果たして実際そうだったのだろうかという大いなる疑問があった。日本軍は、大挙して攻めてくる元軍に対していったい何をしていたのか、懸命に戦いを挑んだのではなかったのか、元軍との激闘はなかったのかと。その後、特に90年代以降から2000年代にかけて、当時の国内外の文献や地元九州圏に伝わる記録等を色々と調べて研究し、総合的に判断してみると、実際のいくさは、60年代～80年代にかけて日本の一般社会に浸透していたイメージとはかなり様相を異にしていると確信した。特に、あたかも神風が吹いて元軍は打ち払われ日本の危機は回避されたというような表象は、ねじれの歴史観にすぎないように思われた。

(3) 文永の役は、主として、蒙古軍・高麗軍、弘安の役は、これらに加えて旧南宋軍との連合軍。彼らの指揮統制・当時の新鋭の武器、兵站や海路の船団の構成、そして、日本軍との戦力比較や、個々の2つの戦いの軌跡を追い、日本の戦略上の英知も盛り込む。相手側にも敬意を払いつつ、客観的分析主義に徹する。また、この日本の未曾有の歴史的な大事件が後世に与えたその歴史的意義についても論じてみる。

2. 懇親会：

- ・日時；2018年4月28日（金） 午後6時～8時（8時半に閉会）
- ・会費；4,000円程度
- ・場所；『咲くら横浜店』（電話 050-5815-7176）

横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1（相鉄岩崎学園ビルB1）

（かながわ県民センターから徒歩2分、横浜駅西口北出口への

途中の岩崎学園ビルの B1) <http://r.gnavi.co.jp/g068263/>

島 亨 toru.shima@ezweb.ne.jp 携帯 090-8774-9487

日高義朝 yh24217957@shi-g.com 携帯 090-9343-8084

以上